



Title	Gallia 64号 会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2025, 64, p. 248-255
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102168
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

会員研究活動報告

(2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

エリック・アヴォカ

- | | |
|---|---|
| Articles | <ul style="list-style-type: none"> ・«Représenter la représentation : les assemblées de l'Antiquité, miroirs de la Révolution à la scène», <i>Revue italienne d'études françaises</i>, n° 14, en ligne, https://doi.org/10.4000/12oz6 ・«Comment en un plomb vil l'or pur s'est-il changé ?» <i>Athalie</i> contre la Constituante, parodie et transfert du sacré», <i>Gallia</i> 大阪大学フランス語フランス文学会, n° 63, p. 29-42, mars |
| Direction
et chapitres
d'ouvrage
collectif | <ul style="list-style-type: none"> ・<i>Regards croisés sur la famille (XVII^e-XX^e siècles) – Images, récits, discours</i>, textes réunis et présentés par Éric AVOCAT, Noriko MOCHIZUKI et Yoichi SUMI, Université Keio (Tokyo, novembre) ・«Ouverture à deux voix», Yoichi SUMI et Éric AVOCAT, <i>Regards croisés sur la famille (XVII^e-XX^e siècles) – Images, récits, discours</i>, p. 1-7 ・«Familles en crise dans le théâtre de la Révolution française : scène de la vie privée, intérêt public», Éric AVOCAT, <i>Regards croisés sur la famille (XVII^e-XX^e siècles) – Images, récits, discours</i>, p. 93-114 ・«Esquisse d'une typologie dramatique des espaces publics de la délibération», Éric AVOCAT, <i>Regards croisés sur la famille (XVII^e-XX^e siècles) – Images, récits, discours</i>, p. 129-149 |
| Communication
à un colloque | <ul style="list-style-type: none"> ・«Jusqu'aux derniers rideaux des hautes latitudes» : la quête de nouveaux territoires de fiction chez Jules Verne, entre gradation et renversement», Colloque international <i>Degrees of Fictionality / Les degrés de fictionnalité</i>, Association for Studies in Fiction and Fictionality (ASIF), 関西学院大学, 10 月 |
| Organisation
et animation
d'un Workshop | <ul style="list-style-type: none"> ・«Discussion sur le Choix Goncourt du Japon 2025 – Impressions de lecture avant sélection», コーディネーター・パネリスト, 日本フランス語フランス文学会秋季大会 (SJLLF), 関西学院大学, 10 月 |

足立 和彦

- | | |
|------|---|
| 口頭発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・「落語の近代化？一三遊亭円朝「名人長二」とモーパッサン」, 「落語で学問する！」第2回研究発表会, オンライン, 3 月 ・「モーパッサン『水の上』, あるいは詩への回帰」京都大学人文学研究所 共同研究・基盤研究 (C) 斑「ポスト=ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義」, 第22回例会, 京都大学, 7 月 ・«Le lecteur comme destinataire : les contes épistolaires de Maupassant», Colloque international «La Fiction épistolaire en France. Du XIX^e siècle au XXI^e siècle», Paris, New York University, 11 月 |
| 雑誌記事 | <ul style="list-style-type: none"> ・「対訳で楽しむモーパッサンの短編 (第1-3回)」, 『ふらんす』, 10 月号—12 月号, 各回 6 頁, 10-12 月 |
| 訳書紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・「アンリ・トロワイヤ『モーパッサン伝』(水声社) 刊行に寄せて」, 『研究論集』, 日本フランス語フランス文学会中部支部, n° 48, p. 57-60, 12 月 |

安達 孝信

論文

- ・「エミール・ゾラ『パリの胃袋』における苦難のバリと再生の郊外」,『名城大学人文紀要』,第59巻3号,p.1-15,3月
- ・「ユイスマンスと反ブルジョワの美術批評—ドガ,ギョーマン,グナットをめぐる—」,『Gallia』,第63号,p.95-106,3月
- ・「エミール・ゾラ『ムーレ神父のあやまち』における死の庭パレード」,『名城大学人文紀要』,第60巻1号,p.1-16,9月

新聞記事

- ・「パリオリンピックとセヌ川：遊泳の禁止とその誘惑」,『中部経済新聞』,7月26日号掲載

ポスター発表

- ・「パリ郊外と自然主義文学」,『名城大学リサーチフェア 2024』,11月25日-12月25日

安藤 麻貴

論文

- ・«La représentation des plantes chez Camus dans les années Cinquante—Un éclairage sur la création du *Premier Homme*», *La Revue des lettres modernes*, Série *Albert Camus*, n°26, «Postérité d'Albert Camus», *Lettres modernes Minard*, p. 45-58, décembre

口頭発表

- ・「アトリエ『プチ・ニコラ』IV—『プチ・ニコラ』番外編 ゴシニとサンペによるルポルタージュ」,野呂康氏との共同発表,日本フランス語フランス文学会中国・四国支部大会,山口大学,12月14日

連載記事

- ・「『星の王子さま』への招待(全6回)」,中村啓佑氏発行『花だより 人だより—ふみの里から』,54号-55号,57号(1)(2)(3),58号,1月-10月

岩根 久

口頭発表

- ・「効果的な苦情対応のための ESP 教材開発：アンケートとロールプレイの調査結果から」,岩井千春氏と共同発表,外国語教育メディア学会(LET)第63回(2024)年次研究大会,名古屋学院大学,8月7日
- ・「AI 支援による 16 世紀フランス語テキスト研究：テキストの校合について」,テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ研究会,大阪大学,8月30日
- ・«Traduire Ronsard, et le chanter : Réceptions littéraire et musicale en Corée et au Japon», 伊藤玄吾氏,上谷俊則氏,林千宏氏と共同発表, *RonsArt*, 66e Colloque international d'études humanistes, CESR, Tours, France, オンライン,9月11日

上江洲 律子

公開講座

- ・「フランス文学におけるある挑戦—アゴタ・クリストフ『悪童日記』—」,ラジオ沖縄『沖国大ラジオ講座—万国津梁をめざして—』,9月25日,10月2日

太田 晋介

論文

- ・「詩の始まりとしての反ロマン主義：初期ボンジュにおける古典詩学の再建と解体」, 『ステラ』, 第43号, 12月, 271-294頁

柏木 加代子

論文

- ・«Flaubert, le Japon et le japonisme», *Gallia LXIII*, mars 2023, p. 83-94.
- ・「伊藤小坡の《琵琶記》 — 歴史画と風俗画の交差（キアスマ）」京都市立芸術大学 美術教育研究会研究誌『美』第222号, 30-35頁, 3月31日
- ・「＜観る＞上村松篁 —京都画壇・京都芸大とともに—」, 京都市立芸術大学美術教育研究会研究誌『美』第223号, 71-83頁, 9月30日

柏木 隆雄

著書

- ・『本居宣長・春庭・小津久足・小津安二郎—伊勢松阪の知の系譜—』, 和泉書院, 268頁, 11月30日

論文

- ・「語りの妙味 —プロスペル・メリメ『カルメン』をめぐる—」, 『研究論集』No.48, 日本フランス語フランス文学会中部支部, p. 1-24, 12月

エッセイ

- ・「松阪の知の系譜 本居宣長, 小津久足, 小津安二郎」第112回〜124回, 夕刊三重新聞
1月6日〜4月6日まで毎週土曜日連載
112「戦争体験の影はどこに」113「戦争只中に『父ありき』」114「“父ありき”, “長屋紳士録”」115「『晩春』は『父ありき』の変奏」116「『晩春』の山場の能楽堂」117「『晩春』, 『宗方姉妹』で古典回帰」118「『麦秋』既婚組と未婚組」119「戦中の作品をリメイク」120「名作『東京物語』の背景」121「サラリーマンの哀歓」122「『東京暮色』も名作」123「戦前の名作をリメイク」124「小津一党の流れくむ」
- ・「會津八一の歌碑をたずねて」報告, *Mon Nara*, 2024年2月号, 奈良日仏協会, p.4, 2月25日
- ・パスカル研究の「大阪学派」, 『花だより』, No.56, p.2-4, 8月31日
- ・三好孝元理事長を悼む 『赤壁』第96号, 三重同工会, p.3, 9月1日
- ・参加者感想 『紡ぐ』奈良日仏協会創立30周年記念誌, p.36, 12月1日

口頭発表

- ・「文学の世界から見る昔のお金, 今のお金」, 三重日仏協会, 放送大学三重学習センター共催, 三重県総合文化センター文化会館, 2024年4月7日
- ・「西川祐子先生を偲んで」, 関西バルザック研究会, 近畿大学（ズーム開催）, 8月31日
- ・「谷崎潤一郎と上方の食」, 懷徳堂古典講座, 阪大中之島センター, 11月7日
- ・「小林一三の小説」, 懷徳堂古典講座, 阪大中之島センター, 11月14日
- ・「肥田晴三のなにわ学」, 懷徳堂古典講座 阪大中之島センター, 11月21日

金崎 春幸

- 論文 ・ «Adonis et Astarté dans *La Tentation de saint Antoine*», *Gallia*, n° 63, p. 71-73, 3 月
- 川上 紘史
- 博士論文 ・ *Voir autre chose que ce que je vois. La vision chez Pascal.* (リヨン第二大学に提出, 1 月)
- 論文 ・ 「視覚イメージに基づくパスカルの説得——「説得的な証拠によって神の印を見せる」, 『フランス哲学・思想研究』第 29 号, p. 27-39, 10 月
- 口頭発表 ・ 「今見ているものとは別のものを見る—パスカルにおける視覚—」, 第 92 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 大阪大学, 3 月 2 日
- ・ 「パスカルにおける視覚」『パスカル読本』論文検討会, 盛岡大学, 8 月 2 日
- ・ 「トニー・ゲラルト『パスカル: モダン, アンチモダン, アルターモダン?』の翻訳」第二回『パスカル読本』論文検討会, 武蔵大学, ハイブリッド, 11 月 10 日
- 北村 卓
- 論文 ・ 「ボードレールにおける「孤独」の展開 — ロビンソン・クルーソーへの言及を通して」, 『表象と文化 XIX』大阪大学大学院人文学研究科「言語文化共同研究プロジェクト 2023」, p.15-20, 5 月
- 共編著 ・ 『実用フランス語技能検定試験 2024 年度版 2 級・準 2 級 仏検公式ガイドブック』, フランス語教育振興協会, 駿河台出版社, 準 2 級担当, p.125-241, 4 月
- 書評 ・ 中地義和 編『ボードレール 詩と芸術』, 《日仏会館ライブラリー》1, 水声社, 2023 年, 日本フランス語フランス文学会『Cahier』34 号, p.18-20, 8 月
- 口頭発表 ・ 「フランス詩における抒情詩研究の射程」, シンポジウム『抒情詩の「話者」／「主体」理論』, 日本比較文学会関西支部 9 月例会, 近畿大学, 9 月 21 日
- 篠原 学
- 共著 ・ 『将棋と文学セレクション』, 将棋と文学研究会監修, 矢口貢大編, 秀明大学出版会, 7 月 [担当箇所: II 部テーマ篇「将棋と小説」p. 186-189.]
- 論文 ・ 「クンデラはどのようにカフカの遺産を継承したか」, 大阪大学大学院人文学研究科「人文学共同研究プロジェクト 2023」『ヨーロッパ超域研究 6』, p. 1-12, 3 月
- ・ 「将棋の駒を動かす: 堀辰雄の読むモーリアックの小説論」, 大阪大学大学院人文学研究科「言語文化共同研究プロジェクト 2023」『表象と文化 XXI』, p. 31-41, 5 月

- 口頭発表
- ・ «La Création du personnage chez Milan Kundera : le «pacte» et le «je»», «Les Degrés de la fictionnalité», Troisième colloque international de la Société internationale des recherches sur la fiction et la fictionnalité, 関西学院大学, 10月19日
 - ・ 「『一九八四年』の変奏としての『存在の耐えられない軽さ』——家族のあり方に着目して」, 第146回欧米言語文化学会例会, オンライン, 12月8日
- 講演
- ・ 「狭間で待つ、ということ」, 小川洋子氏および田邊欧氏との鼎談, 第2回大阪大学外国語学部・外国学専攻シンポジウム「物語からことばへ、ことばから役割へ」第1部, 10月5日
- 高岡 尚子
- 共著
- ・ ジェンダー事典編集委員会編『ジェンダー事典』編集委員（丸善出版[本人担当:「フランス文学」]1月）
- 武田 裕紀
- 論文
- ・ 「ポール・ロワイヤル論理学における観念の明晰性と判明性について」, *Gallia* 63号, p.13-28, 3月
- 口頭発表
- ・ 「パスカルにおける科学的認識と論証——『幾何学的精神について』を中心に」, 京都哲学史研究会, オンライン, 5月11日
 - ・ «Idée claire et idée distincte dans la *Logique de Port-Royal*», Colloque international : L'art de penser à l'âge classique, 日本女子大学, 9月11日
 - ・ 「パスカルとサイフォンの原理」, 日本科学史学会西日本研究大会, 関西大学, 12月7日
- 寺本 成彦
- 口頭発表
- ・ 「月世界旅行の光と影—J・ヴェルヌからG・メリエスに至る科学的驚異の物語と植民地主義—」, 日本フランス語フランス文学会2023年度北海道・東北支部大会, 山形大学, 2023年11月4日
- インタビュー
記事
- ・ 「文学研究から映画研究へと橋を渡す」, 季刊誌『まなびのめ』, 第66号, 笹氣出版印刷株式会社, 10月, <http://manabinome.com/archives/9169>
- 中島 姫奈
- 口頭発表
- ・ «La curiosité dans le conte *Serpentin Vert* La résistance aux préjugés, les femmes qui lisent», L'éducation des femmes : dialogue entre la littérature française et la littérature japonaise du Moyen Âge aux Temps modernes, Université de Kyoto, 2 février

永瀬 春男

研究ノート

- ・「パスカルにおける論証と説得 —『パスカル科学論集』収録作品を中心に—新刊『パスカル科学論集』の紹介を兼ねて」, 『岡山大学ヨーロッパ言語文化研究』, 第42号, 54-62頁, 10月

口頭発表

- ・「パスカルにおける論証と説得 —『パスカル科学論集』収録作品を中心に」, 岡山大学ヨーロッパ言語文化研究会, 6月8日
- ・「パスカルの科学論争—「秩序」論の生成と展開」, 大阪大学フランス語フランス文学会第93回研究会, 9月28日

濱田 明

口頭発表

- ・「ハーンにとってのフランス文学：シンポジウム 「越境するハーン—日本・中国・フランス」」, 2024年度日本比較文学会秋季九州大会, 熊本大学, 12月7日

林 千宏

口頭発表

- ・«La réception des chansons sur des poèmes de Ronsard au Japon», Atelier «Réception et traduction de Ronsard en Asie : poésie et musique» [en visio-conférence], 66e colloque international d'études humanistes: RonsArt, Centre d'études supérieures de la Renaissance, Tours, 11 septembre
- ・«Renouveler la lecture des *Amours* (1552) de Ronsard pour une traduction intégrale», ワークショップ「ロンサール『恋愛詩集』(1552)の新たな読解・翻訳に向けて」日本フランス語フランス文学会2024年度秋季大会, 関西学院大学, 10月27日

春木 仁孝

論文

- ・「ふたたびフランス語の隠喩性について」, 『時空と認知の言語学XIII』「言語文化協同プロジェクト2023」p. 34-43. 大阪大学大学院人文学研究科, web版, 大阪大学学術情報庫 OUKA gbkp_2023_j_034.pdf

平光 文乃

翻訳

- ・ジル・フィリップ「文体の変化を考える」平光文乃訳, *Gallia*, n° 63, p. 167-179, 3月

口頭発表

- ・「『囚われの女』ピアノラの場面におけるラモーとボロディン」, 関西ブルースト研究会, 京都大学, 3月30日
- ・「ブルースト『失われた時を求めて』における「部屋」」, 研究教育フォーラム (第53回教員研究会), 大阪大学人文学研究科, 12月12日

三原 大輝

論文

- ・「パスカル『パンセ』草稿 «premier jet» における加筆修正—セリエ版断章 124, 断章 192—」, *Gallia* 63 号, 3-12 頁, 3 月

口頭発表

- ・「パスカルの執筆活動について—「移行」の断章に収められる断章を中心に—」, パスカル研究会第 173 回例会, 明治大学駿河台キャンパス, 6 月 1 日

山上 浩嗣

論文

- ・「パスカルとモンテーニュにおける政治と道徳——法の無根拠性, 政治改革への嫌悪」, 『人文学林』1 号, 大阪大学大学院人文学研究科, 165-183 頁, 3 月
- ・「デイドロ『サロン』抄訳 (6)」, 『大阪大学大学院人文学研究科紀要』1 号, 1-50 頁, 3 月
- ・「「だらしなくふんわりと死ぬこと」——モンテーニュの理想の死とパスカル」, 『フランス哲学・思想研究』第 29 号, 日仏哲学会, 40-52 頁, 10 月
- ・«“Mourir lâchement et mollement” : Pascal face à la mort idéale selon Montaigne», *Courrier Blaise Pascal*, n° 46 : «400 ans de la naissance de Pascal», Centre international Blaise Pascal, p. 239-255, novembre
- ・「『プロヴァンシアル』第 14 信における政治思想——パスカルとニコルの間」『思想』1209 号 (2025 年 1 月号), 岩波書店, 29-50 頁, 12 月

翻訳

- ・ラファエル・ブラン「女性とリベルティナージュ：危険な関係?」, 『ガリア』63 号, 137-151 頁, 3 月

エッセー

- ・「パスカルのメメント・モリ」『花だより 人だより ふみの里から』56 号 (パスカル特集), 中村啓佑発行, 5-6 頁, 4 月 20 日

口頭発表

- ・「パスカル『パンセ』入門」第 1 回「〈自己愛〉から〈慈愛〉へ」, 第 2 回「〈考える葦〉から〈賭け〉へ」, 2024 年度西田幾多郎哲学講座, 石川県西田幾多郎哲学記念館, 7 月 6 日・7 日
- ・«Le manuscrit original et les copies des *Pensées* de Pascal», 「哲学を手稿とアーカイヴの視点から見る」(ベネデッタ・ザッカレロ講演「哲学の手稿とアーカイヴから何を学ぶのか」へのコメント), 成城大学国際編集文献学研究センター主催, 成城大学, 7 月 15 日
- ・「パスカルのメメント・モリ——『パンセ』における〈人間の尊厳〉」, 盛岡大学, 8 月 1 日
- ・「パスカルの生涯再考」, 「『パスカル読本』刊行に向けた論文検討会」, 盛岡大学, 8 月 2 日
- ・«La pensée politique dans la 14^e Provinciale : entre Pascal et Nicole», Colloque international «Entre Absence et Présence : les Provinciales», Université d'Okayama, 14 septembre 2024
- ・「パスカル『パンセ』入門——〈考える葦〉から〈賭け〉へ」, 朝日カルチャーセンター新宿教室, オンライン, 10 月 19 日
- ・「ラファイエット夫人作『クレヴの奥方』を読む——誘惑と貞節の心理小説」, 2024 年度ラスタ教養大学言葉文化コース, 伊丹ラスタホール (伊丹市立生涯学習センター), 2024 年 12 月 9 日

涌井 萌子

論文

- ・「デジタルヒューマニティーズとマザリナード——「レ枢機卿のマザリナード」の計量的分析による帰属検証——」, 『関西フランス語フランス文学』 30 号, 3-15 頁, 3 月

渡辺 貴規子

論文

- ・「大正期の少女雑誌におけるフランス小説の受容—グザヴィエ・ド・メーストル原作, 野村壽恵子訳『シベリアの少女』をめぐって」, 『大阪大学大学院人文学研究科紀要』 第 1 巻, 159-181 頁, 3 月
- ・「大正期の少女雑誌『新少女』における西洋文化の受容—フランスに関する記事を中心に—」, 言語文化共同研究プロジェクト 2023『言語文化の比較と交流 11』, 45-60 頁, 5 月

口頭発表

- ・「大正期の少女雑誌に掲載された女性の伝記の様相—『新少女』を例に」, 日本児童文学学会 第 63 回研究大会, 京都華頂大学・華頂短期大学, 2024 年 12 月 1 日

シンポジウム
(パネリスト)

- ・福田 義昭, 橋本 順光, 鈴木 暁世, 渡辺 貴規子「越境の研究, 研究の越境」, 大阪大学人文学研究科 人文学林シンポジウム, 大阪大学, 11 月 14 日